

## 新幹線・地域鉄道 調査特別委員会

### ○北陸新幹線の建設促進

金沢―敦賀間開業3年前倒しに関し、「福井市内の用地取得のスケジュールをどう考えているのか。整備新幹線の用地取得の条件は厳しいが、地権者に理解されているのか」との質問に対し、「福井市啓蒙地区については、夏以降には用地協議に入っていけるのではないかと考えている。平成28年度中には更地化したい。要望により地権者を集めたり、来られていない地権者を個別に訪ねるなどして説明している」との見解が示された。これに対し、「トラブルが起きた場合、時間的に難しくなる。十分な信頼関係をつくって、全庁体制で取り組んでほしい」との意見が述べられた。

また、九頭竜川橋梁の工事に関し、「いつまでに完成しないといけないのか。国内初の一体橋であるが、工法は決まっているのか」との質問に対し、「平成31年度には完成する必要がある。鉄道建設・運輸施設整備支援機構が行った工事の入札公告では、平成31年度末

までの工期となっている。具体的な施工方法は、機構と業者の協議による」との見解が示された。

このほか、「敦賀以西ルート問題」「与党PTでの福井先行開業検討に係る県の対応」について質問があり、対応等が示された。

### ○地域鉄道の活性化

今後の新型LRVの導入計画についての質問に対し、「福井鉄道では、平成24年度にオレンジの車両を、今年度はライトブルーの車両を入れた。えちぜん鉄道も相互乗り入れに合わせて黄色の車両を入れる。今後、福井鉄道は更に2編成を来年度、再来年度で国体までに導入する。車両の色を変えることでまちに変化が出て、利用者も増える。福井鉄道の残り2編成の色についても検討していきたい」との見解が示された。



福井鉄道の新型LRV

このほか、「県外からのサードホーム福井利用者へのサービス向上のための福井鉄道新駅の設置」等の質問があり、見解が示された。

## 原子力発電・ 防災対策特別委員会

### ○原発再稼働への国民理解促進

再稼働の同意の地元範囲について「国が地元の理解を得て再稼働を進める中で、地元を立地県と立地市町であると示している」との見解が示された。また、「本県が再稼働の同意の範囲を立地県と立地市町だと強調することで、国民感情として、本県が再稼働に前向きであるとの印象を持たれた」と、再稼働に対する道義的責任があると思われることのないようしなければならぬ」との意見があり、「国や事業者が再稼働の意味をしっかりと説明し、国民の理解を得ることが大切」「原子力の安全確保は国の一元的責任で行われ、県は、事業者や国の安全対策を監視・確認する立場である。本県は再稼働に対して前のめりではなく、高浜3・4号機の問題に関して、こ



高浜原発視察での質疑応答

うした観点で十分慎重に対応する」との回答があった。

### ○原発立地地域の実情の理解

原子力規制委員会委員長が立地自治体に安全神話を信じたいという意識がある旨発言したとの報道に関し、「こうした発言がひとり歩きすることにより、世論は本県に安全神話があると見るようになり、公平公正な議論ができなくなる」として、同委員会委員長と知事の見解交換の場の設定など、誤解を解く取り組みを県に求めたところ、「立地地域の実情は繰り返して伝えていないが、同委員長は現場に出て実情を把握する努力が必要。今後働きかけを行う」との対応が示された。

このほか、原発長期運転停止の影響として、関西電力管内の一般家庭の電気料金が北陸電力管内に比べて高く、さらに値上げの申請が出されていることに関し、美浜町以西では原発立地地域でありながらさらなる負担を強いられるとして、県に支援策の検討を求め、意見や、国が進める地方創生の中で嶺南に合った取り組みを求める意見などが出された。